

土浦駅周辺の犯罪率の分布と周辺環境

Landscape and Distribution of the Number of Crimes around Tsuchiura Station

秋本祐子（博士前期課程地球科学専攻）

AKIMOTO Yuko (Master's Program in Geosciences)

(1) 研究目的

土浦市は、茨城県の中でも犯罪総件数が多く、水戸市、つくば市に続いて第3位である（2008年現在）。町内会単位で自主防犯組織が結成されるなど、治安向上へ向けた取り組みがなされてきているが、依然として犯罪率は高いままである。犯罪の起こりやすさの一つの因子として、路地の明るさや落書きの有無といった周辺環境が挙げられる。そこで、本研究では、土浦駅周辺の街灯と落書きの分布と犯罪の発生件数の分布を比較し、その関係を分析する。

大和町) においては、街灯がまばらで、落書きも多い。これらの場所は犯罪件数の多い地域と一致する（図3）。



図1：街灯の分布

(2) 対象地域

土浦駅周辺地域の桜町1～3丁目、港町1～2丁目、大和町、有明町を対象とする。



図2：落書きの分布

(3) 調査・分析方法

対象領域内の道を歩き、GPSで街灯、落書きを記録した。その結果をArcGISに取り込み、分布の特徴を把握する。さらに、それらの結果を犯罪発生件数の分布と比較する。

(4) 結果

図1に街灯の分布図を示す。これを見ると、街灯は、駅の西側で密、東側では疎であることが分かる。図2に、落書きの分布を示す。落書きは、駅の西側で多く見られる。また、モール505、高架下、中央道路沿いで特に多く見られ、桜三丁目や港町などの住宅街にはほとんど見られなかった。駅の北側（有楽町や

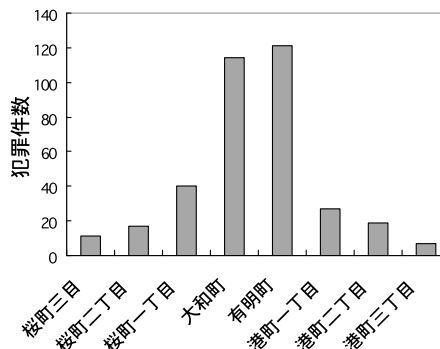


図3：犯罪件数（2008年）